

守りたい みんなの青い海

美しい九十九島の景色をはじめ、青く透明な海はわたしたち市民の自慢の一つです。磯遊びや海水浴など家族や友人と海で過ごした思い出も多いことでしょう。また観光や水産業など、本市の産業に欠かせないものでもあります。しかし、そんな佐世保の海に数多くのごみが流れ着いていることは、あまり知られていません。今回の特集では、佐世保の海を愛する皆さんに、わたしたちが知らない、いつもと違う海の話をお聞きしました。

漂着物って何？

九十九島ビジターセンターでは、定期的に漂着物調査をしています。漂着物とは、海辺に流れ着いた物。自然の物と人工の物があります。自然の物とは、流木や海藻など。そして人工の物は、ほとんどが「ごみ」と呼ばれる物です。

してもらい、九十九島の無人島「桂島」に行きました。

流れ着いたごみは

遊覧船からは見えない

5月の晴れた日、漂着物の調査をしている、九十九島ビジターセンター職員の粟生恵理子さんにボートを運転



九十九島ビジターセンター職員の粟生恵理子さん

してもらい、九十九島の無人島「桂島」に行きました。砂岩の模様が美しい岩場の上陸。思いのほか、ごみが多いことに驚きました。春は1年の中でも漂着ごみが少ない時季とのことですが、それでもペットボトルやビニール袋、壊れたビーチサンダル、ボール、電球など、いろいろな種類のごみが流れ着いていました。これらは岩の間に打ち上げられたり、遊覧船のコースで通らない場所に溜まったりしている

ので、漂着物の存在を知る人は意外と少ないのだそうです。「これらのごみは、風で飛ばされてきたり、流れ着いたりした物が多いんです。この島で捨てられた物は少ないんですよ。」粟生さんが、集めたごみを手にしながら教えてくれました。

九十九島に流れ着いたごみ



スプレー缶やガスボンベは爆発の恐れがあり危険



ペットボトルやトレイ、発泡スチロールなど



漂着ごみの中で最も多く見られるビニール袋



岩の間に挟まったヘルメット



波に打ち上げられた座布団



ごみ拾い後、約10分でいっぱいになったごみ袋

飲み物用の紙パック

遊覧船からは見えない九十九島へ

九十九島の無人島の様子を取材するため、桂島と鳥の巣島へ。大きな船からは見えなかった漂着物の多さに驚きました。



1 ハマエンドウの実。紫色の小さな花も見られた 2 トペラはキンモクセイの花の香りに似ているが葉の匂いは臭い。魔除けとして扉に飾ったことからこの名が付いた 3 鳥の巣島にいたコマツギガニ。砂浜にすむ甲羅が1cmほどの小さなカニ 4 柔らかい砂岩は波や雨、ここにすむ生き物の動きなどで長い時間をかけて侵食され、独特の形をつくり出す。驚くべきことに岩の間からは、生命力あふれるアコウの木が生えていた 5 アウトドアインストラクターの林田聡さん。JRCA(日本レクリエーション協会)の検定指導員でもあり、日本全国で幅広く活躍中



カヤックに乗って

低い目線で海を眺める

翌日、今度はカヤックをこいで、無人島に行きました。案内役はガイド歴17年の林田さん。林田さんは幼いころから九十九島に親しんでいて、カヤックの技術も九十九島のガイドもベテランです。この日も目の前に広がる大自然について、ユーモアあふれる語り口で、いろいろなことを教えてくれました。

カヤックから見る景色は、ほかのどんな船より低く、座ったまま水面に手が届きます。まるで波の上に座っているような感覚。歩くくらいのペースで進み、波の揺れや風も自然のまま心地良く感じる事ができます。

国立公園で遊ばせたい

九十九島、平戸島、五島列島に大別され、大小400あまりの島から成る西海国立公園。九十九島では208の島が確認されていて、波静かカヤックにぴったりの条件が整い、市民にとっては思い立ったらすぐに行ける、ぜいたくな庭のような存在。リアス式海岸や砂岩の模様、侵食が

つくりだす芸術的な風景、そして美しくて珍しい植物や、絶滅寸前といわれる小さな生き物もいる貴重な場所です。

「なぜ？」を考える

大自然を体いっばいに感じながらパドルをこいで、上陸したのは鳥の巣島。着いてすぐに砂浜にコマツギガニの姿を発見。しかし同時に、この島にもたくさん漂着ごみがありました。林田さんは言います。

「僕は九十九島の海が好きです。ほかにはない、この貴重な自然の中で遊べることは、素晴らしいことだと思います。だからこそ、誰かが海でごみを見つけたときには、その人に、なぜこのごみがあるのか、どこからどうやって来たのかを考えてほしいんです。そうやって一人一人に考えてもらうことが、この海を守っていく上で、大切なことだと思います。」

この日、3人がかりで10分ほどごみ拾いをして、3袋分のごみをカヤックに積んで持ち帰りました。

佐世保の海を心から愛する4人の市民の皆さんに、普段どんなふう^に海と接点を持っているのか、そしてこの海を守るためにどんな思いで活動しているのかを伺いました。

とつていいものは「ごみと写真」だけ
悪いことをしたら罰が当たるよ

シーカヤックと九十九島の魅力は何ですか？

何と言っても自然との一体感です。最小限の道具を使って自らの力でごく。海の上に座っている低い視線。歩くようなスピード感。シーカヤックだからこそ感じられる九十九島の姿があります。人工の構築物に囲まれた生活から抜け出して、そういう時間を持つことは必要だと思っています。九十九島は波静かで島影が多く、カヤック初心者向けである上に、まるで本のページをめくるように景色が変化します。優しい自然体験ができる場所なんです。イルカやクジラ、ウミガメと出会ったこともあるんですよ。

海の清掃活動をされているそうですね？

カヤックは小回りが利くので、海の上のごみ拾いに適しています。ごみを拾いに行くことがカヤックを操る練習にもなりますしね。ただ僕は「カヤック」「ごみ拾い」「草むしり」が趣味なんです。この3つは、何とていうか雑念を払えるんです。それぞ

れ達成感があるから、新しい発想がわくこともあります。好きな昔の曲を聴きながらだと、さらに最高の時間になるんです。僕が好きでやっていることなので「エコツアーだからごみを拾って」とは言いません。でも僕の後ろ姿を見て、思いを感じてくれるのを期待しています。

海を大切にするためには、どうすればいいですか？

海で遊ぶとき「とつていいもの」は、ごみと写真だけ。決して何かを持ち帰ってはけません。生態系を崩す原因になりかねません。でもね、生態系とかそういう難しいこと以前に、子どもたちには「悪いことをしたら罰が当たるよ」ということを教えたいてね。日本人が本来持っている「罰当たり感」があれば、マナーは自然と良くなるんじゃないかな。まあ、最近あまり聞かなくなった言葉ですけどね。それから「自分は九十九島に選ばれてここにいます」と思っています。周りには同じ思いの人たちがたくさんいますよ。思い入れの強さも必要だと思っています。



九十九島シーカヤックガイド協会認定ガイド 岡本幸実さん
佐世保シーカヌークラブ初期からのメンバーでカヤック歴は25年。一度でその魅力にとりつかれ、感動を伝え広めるために、あまり知られていなかったカヤックを展示・販売するアウトドアショップを開店。現在は佐世保市海洋スポーツ協会主催の「海をきれいにonシーカヤック」を定期的^に開催。



「海をきれいにonシーカヤック」の様子



岡本さんたちがカヤックで運んだ大量のごみ

「スナメリ」の生息は約300頭 大村湾の環境を知り、守るためにも大切な存在

九十九島水族館なのに、どうして大村湾の調査をするんですか？

地域の生き物を紹介することは、水族館の使命の一つです。それは九十九島に限らず佐世保に面した大村湾も対象になります。大村湾では「スナメリ」という生き物の頭数や生態などの調査を行っています。

スナメリってクジラの仲間？

イルカと同じクジラの仲間ですが、背びれがなく、頭が丸い。そして、ほとんどジャンプしません。大村湾には約300頭いると思われ、湾内で一生を送ります。そして2年に1度、1頭しか子どもを生みません。妊娠期間が約1年で、その後1年から1年半は母乳で育てますから、いったん数が減ると増えることがとても困難な生き物です。

どうしてスナメリの調査を？

スナメリは肉食で、魚などを食べます。つまり、大村湾の生態系の頂点にいる生き物なんです。スナメリの餌になる魚がいる、魚の餌になるプランクトンがいる、そのプランクトンが生きるためには水がきれい

なければなりません。しかし大村湾は、水の入替わり場所が2カ所しかないため、一度水が汚れると、きれいにするのが難しい環境です。そして現在の300頭という数は、10年後の生存が危ぶまれる危機的状況であるといえます。つまり、大村湾の環境を知り、守るためにも、スナメリは大切な存在なんです。

保護したスナメリはいますか？

昨年4月、西海橋近くでスナメリの赤ちゃんを保護しました。しかし母乳で育つスナメリにとって、親とはぐれてしまうことは死を意味します。なんとか元気にしようとして試行錯誤してミルクを作り与えましたが、12日後、肺炎で死んでしまいました。このときの詳細なデータは、次に保護したときに、ぜひとも生かしたいと考えています。

例えばスナメリが絶滅したとしても、すぐには人間の生活に影響がないかも知れません。しかし崩れた生態系の影響は数十年後、数百年後に表れる可能性があります。だからこそ、今の海の環境を守っていくことは、とても重要なことなんです。



九十九島水族館「海きらら」
駒場昌幸さん

千葉県出身。東海大学海洋学部在籍中、南極のクジラ調査に参加。以来、鯨類に関心を持つようになり、卒業後愛知県的水族館で10年、沖縄県のイルカふれあい施設で5年のイルカ担当の経験を経て「海きらら」へ。現在、させほパールシー(株)水族館事業部イルカ課課長、学芸員として活躍中。



昨年4月に保護されたスナメリの赤ちゃん



赤ちゃんにミルクを飲ませるスタッフ

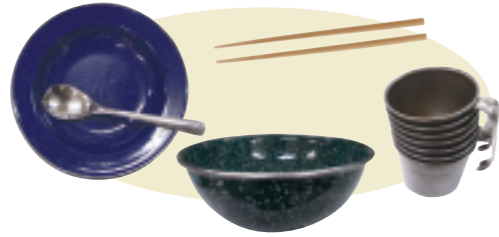
写真提供：九十九島水族館「海きらら」

ごみゼロのお出掛けを実践しよう！

持って行ったものを持って帰ろう

食材以外は、持って行ったものを持って帰るのがごみゼロへの一番の近道です。汚れたものを入れて持ち帰るための袋も忘れずに。

使い捨て食器はやめて、マイ食器を使おう



箸、皿、コップなど、アウトドア用の食器をひと揃え買っておくと、何度も使え、愛着もわきます。

バーベキューは、決められた場所で！
食材は下ごしらえをしてから出掛けよう

キャンプ場などの決められた場所以外では、バーベキューをしないでください。また、出先で野菜を切るのは、刃物やまな板を持って行くため荷物が増える上に、皮むきなどで生ごみも出ます。自宅の下ごしらえをしてから、容器に入れて持って行きましょう。食べ残した食材も容器と一緒に持ち帰ることを忘れずに！

7月18日は「海の日」
ビーチクリーン活動に参加しよう！

【ビーチクリーンアップ】

時 7月18日(月) 9時(約1時間)

場 鹿子前、俵ヶ浦、白浜地区

申 希望地区、住所、氏名、年齢、電話番号を書いて、はがき(〒857-0855、新港町8番1号)かファクス(22-6149)で、みなと振興・管理課へ
7月13日(金)必着 ※個人でも団体でも応募可。

【市中パレード】

時 7月18日(月) 14時(場) 四ヶ町アーケードから松浦公園

問 みなと振興・管理課 ☎22-6127



危険なごみにご注意ください！

- ① 外国語が書かれたポリタンクなど
人体に有害な化学薬品などが入っている場合があります。薬品に触ったり吸い込んだりすると危険ですので、下記へご連絡ください
宇久地域⇒宇久環境センター ☎0959-57-3125
宇久地域以外⇒廃棄物指導課 ☎20-0660
- ② スプレー缶、カセットガスボンベなど
爆発する可能性があります。容器が錆びたり、変形したりしているものは、特に注意しましょう
- ③ 注射器、薬びんなど
割れてけがをするだけでなく、治療に使われていた場合、病気になる可能性もあります
ほかにも、ふたがしまった缶ジュースなどは、中身が腐敗してガスがたまって爆発することがあります。見つけても無理に拾わないようにしてください。



相浦漁業協同組合日野支部の皆さん



3月に行われた清掃で回収したごみ袋の山



相浦漁業協同組合日野支部 田中栄市さん(写真右)、沼本勝美さん(写真左)

相浦漁業協同組合日野支部では、漁業環境の維持・改善を目的に南九十九島海域の清掃活動に積極的に取り組んでいる。現在、同支部は38人の組合員で構成されており、3~4カ月おきに漁船を使って清掃作業を行っている。毎回10隻前後の漁船と平均25人が参加し、船いっぱいのごみを回収している。

おいしい魚が捕れる豊かな海であるために
漁師が漁以外に生きやいけなないことがあるんだ

漁船で回収した大量のごみ
一体どこからくるんですか？

左上のごみ袋の写真は、3月に行った清掃活動で回収したものです。中身のほとんどは、レジ袋などのビニール、ペットボトル、発泡スチロール、プラスチック、食品トレーなどです。海に遊びに来た人が、そのとき出たごみを捨てているというより、家庭ごみそのものなんです。まちなかにあるごみが溝へ入り、それが雨で流れて川へ、そして海に押し流される。だから、梅雨が一番ごみが多い時季なんです。もう、川に網をひいて引っ張ろうかと思うくらい、すごい量なんです。

ごみが増えると漁にどんな影響があるんですか？

例えば、魚を捕る網にビニール袋が入ると、魚の姿を見つけた魚は警戒して網に入らなくなる。そうすると魚が捕れなくなるんです。昔はウミガメやカブトガニがすぐそこまで来てたけど、今はほとんど見なくなりました。やっぱり汚れてきているんでしょう。僕たちのおじいさんが子どものころは、相浦辺り

の砂浜でもウミガメが産卵していたと聞いています。

海のごみを減らすために、わたしたちができることは？

とにかく、家庭ごみを決められたとおりに処分すること。鳥や野良猫に荒らされないように出す。そして街にポイ捨てをしないこと。街から川へ、川から海へごみが流されていることを知ってください。小さなことですが、風で飛ばされる軽いごみを持ち歩かない方がいいですね。買い物はどんなに少量でもエコバッグを使うとか、ペットボトルの中身は水筒に移して持ち歩くとか。残念ながら、現状の九十九島のごみは僕たちがいくら掃除しても手に負えないくらいです。それでもしないよりする方がいい。

今、日野支部だけで年に約2万匹の稚魚を放流しています。この海に育ててもらい、そして大きくなったものだけを捕って市場に出します。今後もおいしい魚を提供していきたいと思えますので、皆さんには家にあるごみを海に流さない、海を汚さない努力をしてほしいと思います。

今回伺ったお話の中で、漁師さんが言いました。
「海はつながっているけんね〜」
そうです。海はいろいろなところにつながっています。山でわいた水は小さな川から大きな川へ。雨水なども溝から川へ。そしてそれは海へと流れ、日本だけでなく世界の国々ともつながっています。
ふるさとの海を守るとは、世界の海を守ること。
大げさに聞こえるかもしれませんが、そしてすぐに実行できることは、とても小さなことかもしれません。しかしその気持ちを続けることは、とても意義ある大切なことだと思います。
さあ、できることから始めましょう。